鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～都市農村交流により支え合い、開発とバランスの取れた流出抑制と更なる治水対策の充実～

○ 令和元年東日本台風で甚大な被害が発生した鳴瀬川水系では、吉田川・新たな水害に強いまちづくりプロジェクトに加え、以下の取組を実施していく。国管理河川の鳴瀬川では戦後最大の洪水である昭和22年9月カスリン台風に対して気候変動の影響を考慮した規模の洪水、吉田川では近年最大の洪水である令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水が発生しても被害を防止する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○河川区域での対策
- 河道掘削、堤防整備、遊水地整備、鳴瀬川ダム建設、漆沢ダム再開発　等

○集水域での対策
- 利水ダム等8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
- 排水機場の増設、能力強化、耐水化
- 下水道整備（雨水調整池、幹線整備）　等
- 水田貯留、森林整備、治山対策　等
- 流出抑制対策検討　※今後、関係機関と連携し対策検討

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○氾濫域での対策
- 市町村庁舎等防災拠点の機能確保
- 簡易型河川監視カメラの設置
- 災害リスクの現地表示箇所の拡大を促進
- ダム堰の効果・操作に関わる情報の周知
- マイ・タイムライン普及促進
- 要配慮者施設避難計画促進
- 水防資機材の拡充　等
- 水害リスク空白域の解消

※今後、関係機関と連携し対策検討

仙台圏に近い山地農村エリアでは開発が進み、都市と農村が連携し、バランスの取れたまちづくりが求められている。（大郷町）

■被害対象を減少させるための対策

○氾濫域での対策
- 適正な土地利用の規制誘導
- 二線堤の整備
- 土地利用・住まい方の工夫（浸水被害軽減の宅地嵩上げ支援等）

※今後、関係機関と連携し対策検討

※対策事業の代表箇所を旗揚げしている。

■グリーンインフラの取り組み

詳細次ページ

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※水位をさらに下げて安全に流下させるための検討を実施していく。

鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～都市農村交流により支え合い開発とバランスの取れた流出抑制と更なる治水対策の充実～

●グリーンインフラの取り組み　『日本有数のハクチョウ・マガンの集団越冬に必要となる良好な自然環境の保全』

○古くから水稲栽培が盛んで、藩政時代には米を輸送するための舟運が発達するなど鳴瀬川水系を中心として文化が形成された地域であるとともに、また、優れた自然環境を有しており、国内有数のハクチョウ・マガンの集団越冬地となっている。
○湿地環境が形成される河道掘削を行い、国内有数のハクチョウ・マガンの良好な環境を保全するとともに、集団餌場としても利用される遊水地との連続性を確保するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

【全域に係わる取組】
- 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全
- 水質の保全
- 良好な景観の保全
- 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

位　置　図

■グリーンインフラメニュー

●治水対策における多自然川づくり
・生物の多様な生息環境の保全
・遊水地における平時の利活用検討（上流遊水地群）

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
・小学校などにおける環境学習
・鳴瀬川ダム、漆沢ダムを活用したインフラツーリズム

●流域治水に資する水田、ため池等の保全
・生物の多様な生息環境の保全（水田貯留）

●健全なる水循環系の確保
・森林整備による水源涵養機能の維持

※対策事業の代表箇所を旗揚げしている。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～都市農村交流により支え合い開発とバランスの取れた流出抑制と更なる治水対策の充実～

○ 流域全体のあらゆる関係者が協働して協議・情報共有を図り、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進し、あわせて河川、下水道等の管理者が主体となって行う対策や、更に流域の特徴を踏まえた流出抑制対策、被害の防止・軽減対策を実施する。

【短　期】平成27年9月関東・東北豪雨、令和元年令和元年東日本台風により甚大な被害を受けた吉田川沿川の浸水被害を防ぐため、河道掘削・堤防整備及び遊水地整備を推進するとともに、安全なまちづくりのための土地利用規制や、住民の避難行動を促す河川・ダムの情報提供の充実を図る。

【中　期】鳴瀬川ダムの完成を目指すと共に、河川においては堤防整備及び河道掘削を推進し、安全なまちづくりのための嵩上げ盛土支援や広域連携による避難強化を図る。

【中長期】気候変動の影響による、激甚化・頻発化する水災害や、令和元年東日本台風を踏まえた更なる治水対策を推進するとともに、引き続き森林整備や農業用施設との連携により流出抑制下水道整備を進める。さらにマイタイムラインなど地域住民自らの避難行動に繋がる防災意識の啓発を行い、より確実な避難態勢の構築を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工期 短期	工期 中期	工期 中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	吉田川沿川の氾濫を防ぐ河道掘削及び堤防整備	北上川下流河川事務所・宮城県	河道掘削、堤防整備、遊水地整備		
	鳴瀬川沿川の氾濫を防ぐ堤防整備及び河道掘削	北上川下流河川事務所・宮城県			河道掘削、堤防整備
	令和元年東日本台風を踏まえた更なる対策	北上川下流河川事務所・宮城県		更なる治水対策	
	鳴瀬川総合開発事業（鳴瀬川ダム（建設）及び漆沢ダム（再開発）	鳴瀬川総合開発工事事務所			鳴瀬川ダム建設、漆沢ダム再開発
	利水ダムの洪水調節機能強化	東北農政局・宮城県・流域市町村　等	利水ダムの洪水調節機能強化		
	下水道の整備	流域市町村　等			下水道の整備
	流出抑制対策検討	流域市町村　等	農業用施設との連携	流出抑制対策検討	
	水田貯留	東北農政局・宮城県・流域市町村　等	水田貯留		
	森林整備・治山対策	東北森林管理局・宮城県・森林整備センター	森林整備・治山対策		
被害対策を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫の検討	流域市町村　等	嵩上げ盛土支援・広域避難連携		土地利用・住まい方の工夫の検討
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	被害軽減対策検討	北上川下流河川事務所・宮城県・市町村　等	被害軽減対策検討		
	ソフト対策のための整備検討	北上川下流河川事務所・宮城県・市町村　等	マイタイムライン普及支援		ソフト対策のための整備検討
グリーンインフラの取組	生物の多様な生息環境の保全	北上川下流河川事務所		河道掘削	
	遊水地における平時の利活用検討（上流遊水地群）	北上川下流河川事務所	遊水地整備		
	小学校などにおける環境学習	北上川下流河川事務所・市町村　等			
	鳴瀬川ダム、漆沢ダムを活用したインフラツーリズム	鳴瀬川総合開発工事事務所・市町村　等		鳴瀬川ダム建設	
	生物の多様な生育環境の保全（水田貯留）	東北農政局・宮城県・流域市町村　等	生物の多様な生育環境の保全（水田貯留）		
	森林整備による水源涵養機能の維持	東北森林管理局・宮城県・森林整備センター	森林整備による水源涵養機能の維持		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

【事業費（ R2年度以降の残事業費）】

■河川対策
全体事業費　約１，９４０億円　※1
対策内容　河道掘削、堤防整備、遊水地整備
鳴瀬川ダム建設　漆沢ダム再開発　等

■下水道対策
全体事業費　約１０億円　※2
対策内容　雨水調整池、幹線整備　等

※1：直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載
※2：各市町における下水道事業計画の残事業費（汚水系含む）を記載

鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～都市農村交流により支え合い、開発とバランスの取れた流出抑制と更なる治水対策の充実～

進捗と効果（R5.3版）

支川吉田川上流の床上浸水対策特別緊急事業が令和4年度に完了することで、平成27年9月の関東・東北豪雨と同規模の洪水に対して家屋の浸水被害を解消することが可能となる。また、吉田川の大規模災害関連事業が令和7年度に完了することで、令和元年10月の東日本台風と同規模の洪水に対して家屋の浸水被害を防止することが可能となる。

短期整備（5カ年加速化対策）効果　：　河川整備率　約12%→約53%

実施箇所・対策内容

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

現在

短期

※外水氾濫のみを想定したものである。
※国直轄事業の実施によるものである。
※浸水範囲は、今後の調査・検討や対策内容等により変更となる場合がある。

鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～都市農村交流により支え合い、開発とバランスの取れた流出抑制と更なる治水対策の充実～

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）
整備率：５３％
（概ね５か年後）

農地・農業用施設の活用
６市町村
（令和４年度末時点）

流出抑制対策の実施
１２施設
（令和３年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策
治山対策等の実施箇所　５箇所
（令和４年度実施分）
砂防関係施設の整備数　２施設
（令和４年度施工中分）

立地適正化計画における防災指針の作成
０市町村
（令和４年12月末時点）

避難のためのハザード情報の整備
洪水浸水想定区域　１３河川
（令和４年９月末時点）
※一部、令和４年３月末時点
内水浸水想定区域　１団体
（令和４年９月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保
避難確保計画　洪水　459施設
土砂　56施設
（令和４年９月末時点）
個別避難計画　7市町村
（令和４年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【水田貯留の推進】

大崎市古川千刈江地区（堰板設置式、説明看板設置）

○「田んぼダム実証コンソーシアム設立（R3.6.14）」
（宮城県、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町）
令和3年度から令和5年度までの3ヵ年、大崎市千刈江地区において、「田んぼダム導入促進・効果検証モデル事業」として、堰板設置型の田んぼダムとスマート田んぼダムを設置しその効果の検証を行っています。

○ 田んぼダム実証・普及ワーキング（R3.7.29, R3.11.4）

田んぼダム実証・普及ワーキングの開催状況

○啓発活動（出前講座）

古川第五小学校

古川南中学校

小牛田農林高校

被害対象を減少させるための対策

【復興まちづくり：都市防災総合推進事業】

断面図（復興まちづくり、堤防改修）

現地再建希望者のための嵩上げ宅地の整備

○ 大郷町では、中粕川地域の復興地域づくり方針として、万が一の危機対策を考え、速やかな生活再建が可能な地域づくりを進めるとともに、持続可能な地域の再生を図ることとしています。
○ 国土交通省の堤防復旧と大郷町の復興まちづくり連携して事業を推進し、地域の安全・安心の確保と復興再生エリアのコミュニティ形成を目標とした環境整備を実施します。
○ 合同着工式：令和3年9月26日

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

【防災拠点の機能確保】

【災害時の活用】
①緊急復旧用資材備蓄基地
②災害対策車輌基地
③車輌交換場所
④ヘリポート
⑤洪水時の現地対策本部
⑥水防団の待機場所
⑦水防倉庫
⑧一般住民の避難場所

【平常時の活用】
①コミュニティースペースとして地域に提供
②水防活動の訓練等に利用
③防災学習施設や川の情報発信拠点として水防センターを活用

○ 志田谷地防災センターの整備
大崎市は地域の一時避難場所の確保、水防活動の体制強化など、国は災害対策車両の分散配備、排水活動の体制強化などを目的として整備を実施します。
○ 着工式：令和3年10月14日

志田谷地防災センター完成予想図